

日蓮大聖人御書全集

くぼのあまごぜんごへんじ

窪尼御前御返事

くようぜんこん こと

（供養善根の事）

新版
1977
〜
1978

くようぜんこんこと

（供養善根の事）

弘安4年（'81）
12月27日
60歳
窪尼

品々送られたそうろう
しなじなのものおくり給びて候。

お
お

善根と申すは、大いなるによらず、またちいさきにもよ

ひと

とち

様々

变

らず、国により、人により、時により、ようようにかわり

て
候
○

糞

干

搗

碎

篩

梅

檀

譬へば、くそをほして、つきくだき、ふるいて、せんだん

ち

によにん

てんによ

ほとけ

造

そうら

の木につくり、また女人・天女・仏につくりまいらせて候

ひ
付

燒

そうら

別

か

糞

臭

えども、火をつけてやき候えば、べちの香なし、くそくさ

し。そのように、ものをころし、ぬすみをして、そのはつお殺 盗 初穂

をとりて功德・善根をして候えども、かえりて悪となる。くどく ぜんこん そうら あく

須達長者と申せし人は、月氏第一の長者、ぎおん精舎すだつちようじゃ もう ひと がっしだいいち ちようじゃ 祇園 しようじゃ

をつくりて仏を入れまいらせたりしかども、彼の寺焼けてほとけ い か てらや

あとなし。この長者、もといおをころしてあきなえて長者跡 ちようじゃ 魚 殺 商 ちようじゃ

となりしゆえに、この寺ついにうせにき。故 てら 失

今の人々の善根もまたかくのごとく、大いなるようなれいま ひとびと ぜんこん おお

ども、あるいはいくさをして所領を給び、あるいはゆえな戦 た しりよう 故

く民をわずらわしてたからをもうけて善根をなす。これらたみ 煩 財 儲 ぜんこん

はお ぶつじ 見 ほとけ 成 うえ
は大なる仏事とみゆれども、 仏にもならざる上、 その

ひとびと 跡

人々あともなくなるることなり。

ひと

煩

わ

こころ

直

われ

励

また人をもわずらわさず、 我が心もおしく、 我とはげ

ぜんこん

そうろう

ほとけ

成

みて善根をして 候も、 仏にならぬこともあり。 いわく、

良

種

悪

た

植

種

うえ

よきたねをあしき田にうえぬれば、 たねばかりもなき上、

そん

こころ

くよう

ひと

かえりて損となる。 まことの心なれども、 供養せらるる人

悪

くどく

あくどう

墮

だにもあしければ、 功德とならず、 かえりて悪道におつる

そうろう

こと 候。

にちれん

ご

供

養

そうら

ほけきよう

ご

これは、 日蓮を御くようは候わず、 法華經の御くような

しやかぶつ

たほうぶつ

じつぽう

しよぶつ

くどく

任

れば、釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏にこの功德はまかせま

そうろう

ことし

もう

古

そうろううえ

とうじ

いらせ候。そもそも今年のことは申しふりて候上、当時

年

寒

う

このかた

覚

そうら

はとしのさむきこと、生まれて已来いまだおぼえ候わず。

雪

降

積

そうろう

こころ

ゆきなんどのふりつもりて候ことおびただし。心ざしあ

ひと

訪

おん

音

信

おんこころ

る人もとぶらいがたし。御おとずれ、おぼろけの御心ざし

きようきようきんげん

にあらざるか。恐々謹言。

じゅうにがつにじゅうしちにち

十二月二十七日

にちれん

かおう

日蓮

花押

窪

あまごぜんごへんじ

くぼの尼御前御返事